

大杉谷国有林からの手紙

1通目 ~はじめに~

皆さん、大杉谷をご存知ですか？

大杉谷は、三重県多気郡大台町の宮川上流部に位置し、原生林と数多くの滝、そして雄大な渓谷は、近畿の秘境とも呼ばれ、黒部峡谷、清津渓谷とともに日本三大渓谷にあげられる貴重な自然がのこる場所です。

日出ヶ岳（1,695m）を主峰とする台高山系の東側一体を占め、地形としては隆起順平原と呼ばれる特徴を持っており、標高が1,000～1,200mくらいまでは、比較的緩やかな傾斜の長い尾根を形成していますが、それ以下では一変して急峻な断崖となり、これが、黒部と並び称されるV字渓谷、大杉谷渓谷を形成しています。たくさんの滝の連なる豪快な景観は、周辺の原生林と相まって吉野熊野国立公園の代表的な景勝地となっています。



また、この大杉谷は雨が多い地域として有名です。年間降水量が4,000mmを超えており、屋久島と並ぶ日本一の豪雨地区なのです。

この多量の雨が温潤な気象条件をうみだし、モスフォレストと呼ばれるコケの多い森や、水量豊かな渓谷を作り上げました。

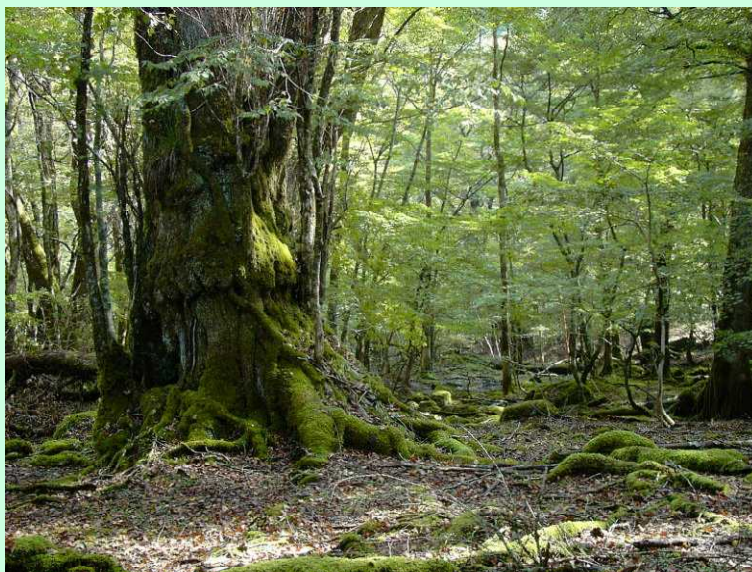
大杉谷を流れる清流・宮川は国土交通省の水質調査で、何度も日本一の称号を取得しています。道中を歩きながら目を奪われる水の

碧さ、豊かさ。それはこの多量の雨がもたらす恵みです。

「弁当忘れても雨具忘れるな」という文言もあるほどの地域です。来られる際は、雨の覚悟と雨具の携帯はお忘れなく。

また、大杉谷から大台ヶ原にかけては、植生も豊かで、標高差約1,400m・8.4℃の温度差を生じるこの地域では、低山帯から亜高山帯までの植物相が分布しており、シダ植物と種子植物合わせて、日本の植物約4,000種のうち1/4にあたる約943種ほどの植物が生育しています。

現在、この大杉谷への年間平均入山者数は、約16万人（うち大台ヶ原周辺で15万人・開山期間は、4月末～11月の約7ヶ月間）となっており、たくさんの方々に自然にふれあっていただいています。



が、シカによる食害や厳しい自然条件などによりトウヒなどの貴重な森林が被害を受けてダメージを受けているのも事実です。

私たち三重森林管理署では、この大杉谷の約4,380haを国有林として、所管しており、これまでに様々な取り組みを実施しています。

「大杉谷からの手紙」は、大杉谷の自然のこと、現在の取り巻く状況、これからへの取組みなど、この素晴らしい森林のことをもっと皆様に知ってもらいたいという気持ちで始めました・・・気長にお付き合いをお願いします。



(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)